

# 団地の魅力の発見・発信による活性化

取組紹介

「地域で活躍する女性による情報発信」



十日市場町周辺地域 (横浜市緑区)  
ーテンイズネットー



若葉台団地 (横浜市旭区)  
ー若葉だい家族ー



洋光台団地 (横浜市磯子区)  
ーまちまどー

# 十日市場

# 十日市場発！地域情報ウェブマガジン 「テンイーズネット」



## 【概要】

地区名：十日市場センター地区  
(20・21・22街区)

所在地：横浜市緑区

現地状況：(20街区) 令和元年9月 供用開始  
(21街区) 令和元年4月 供用開始  
(22街区) 令和2年11月 開発工事着手

開発面積：約3.46ヘクタール

住宅：(20街区) 多世代向け分譲住宅 311戸  
(21街区) サービス付き高齢者向け住宅 181戸、  
高齢者向け地域優良賃貸住宅 30戸、  
一般賃貸住宅 2戸、戸建て住宅 8戸  
(22街区) 住戸数 256戸

施設：介護、福祉、保育施設、  
店舗、学童施設、コミュニティスペース ほか

ten e's net (テンイーズネット) は「十日市場から、10個の“e”を中心に情報を発信し、それぞれがつながって大きな環になる。」

そんな思いを込めて名付けました。

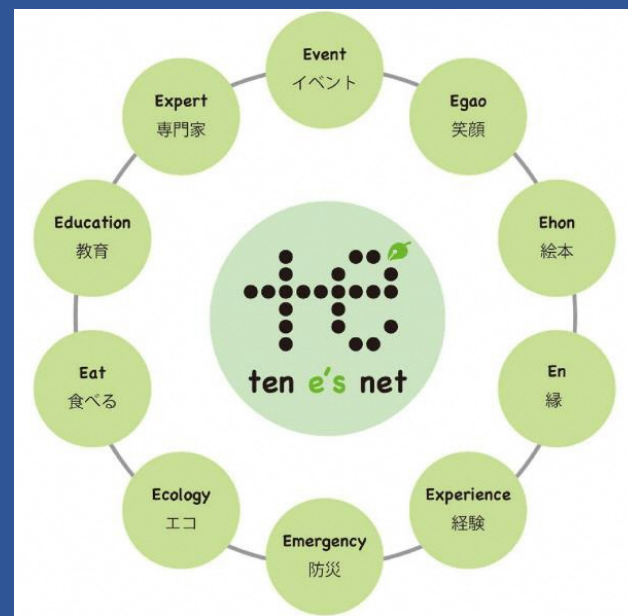
横浜市緑区十日市場町周辺で子育てをしている現役ママたちが中心となって

“ママ目線”で取材をし、地元地域に根付いた生きた情報を配信しています。

子育て情報はもちろん、施設やお店、イベントなど幅広く配信していきます。

また、情報発信の担い手となっているママライターは、

十日市場の魅力を発信する「ママライター講座」の受講者で構成されています。



十日市場発の地域情報ウェブマガジン「テンイーズネット」のライターの方々に、団地・地域の魅力や情報発信を続ける理由についてインタビューをおこないました。

今回、インタビューを受けてくださったのは、井山さんと笠原さん。緑区の地域子育て支援拠点「いっぽ」で開催されたライター講座を受講し、テンイーズネットのライターとして活躍されています。

## それぞれで違う子育ての大変さを伝えたい。

ーライターとなった理由やきっかけを教えてください。

**井山さん**「人によって異なる子育ての大変さを伝えたい。と思ったのがきっかけ。お母さんによっては最初のお子さんの出産がワンオペ、兼業、高齢だったり、それぞれ大変さが異なってくる。読者の方々に、子育てが大変だと思ってもいいんだし、大変だと言ってもいいんだ、と思ってもらいたい。

それから、地域のイベントに多く参加できるように背中を押したいし、育児を楽しんでももらいたい。今やっていることをリアルに発信して、こどもたちとの貴重な時間をみなさんに届けたい。」



テンイーズネットHPより

**笠原さん**「今は助けを求める側だが、元々福祉的な活動が好きで、人を助けたい。私の場合、高齢出産なので育児だけでなく、親の介護もあるが、そのような人向けの地域情報があまりない。私のような方もいるはずなので、発信して伝えたい。この地域で子育てするならこれがある、ここに住んでいる人たちに伝えたい。」

— ママライターとなってあった、出会いについて教えてください。

**井山さん**「ママライター同士の出会いがあった。それまでは「いっぽ」で顔を合わせる程度だったが、ママライターになったことをきっかけにつながりが強くなった。また、人によって状況が異なるので参加の濃淡も異なるがゆるくつながっていける。」



インタビューの横浜市（左）と  
井山さん（右奥）、笠原さん（右手前）

— この地域の魅力とは。

**笠原さん**「「いっぽ」の存在が大きい。困ったときに頼りになる。十日市場駅は電車でアクセスしやすいし、各駅停車なのがよい。快速電車だと、子どもが泣き出すと大変なんです…」

— 今後の活動について

**笠原さん**「福祉施設での経験があるので、福祉的なところに切り込んで活動していきたい。」

**井山さん**「野菜スープやおにぎりを提供してくれてボランティアが子どもを見てくれるという活動をしている団体がある。ゆっくりと楽しめて人が作ったものを食べられる、そういう場所がいつも余裕がないママやパパには本当にありがたい。自分もゆくゆくはそういった場を提供したい。」

# 若葉台団地

## 子育て家族を応援するウェブマガジン 「若葉だい家族」

### 〔団地概要〕

団地名 : 若葉台団地

所在地 : 横浜市旭区

開発時期 : 1973年 造成開始

1977年 建設着工

1979年 入居開始

開発面積 : 約89.6ヘクタール

住宅 : 4~14階建75棟 総戸数6,302戸

(分譲5,186戸、賃貸790戸、高齢者住宅326戸)

施設 : 店舗、総合病院、学校、幼稚園、保育園、

地域ケアプラザ、スポーツ施設ほか

「若葉だい家族」は、若葉台の中心にあるショッピングタウン内「コミュニティ・オフィス春」を拠点として、若葉台で子育て中のママたちが情報発信する、等身大の子育て応援WEBサイトです。

「若葉だい家族」は、

——私達のまち「若葉台」で、

——家族もご近所さんもひとつの大家族のように、

こどもの成長を見守っていききたい、という思いを込めて名付けています。

行ってみたくなる、住んでみたくなる、産んで育ててみたくなる、自慢したくなる・・・そんなまちを目指して。ママ友ってどこにいるの？ 今日どこで遊べばいいの？・・・子育ての困りごと、どんと解決。

「若葉だい家族」ホームページ、ぜひ見てください！



## 子育て家族を応援するウェブマガジン 「若葉だい家族」

### それぞれが無理なくできる範囲で活動することが大事。

イラストなどを担当している久保さんをはじめ、若葉だい家族のライター6名の方々がインタビューにご協力いただきました。

#### — 若葉だい家族が発足した経緯をお伺いできますか。

乳幼児の親にとって地域の子育て情報が不足していたことと、人とのつながりにくさが地域の課題だったこともあり、子育て交流施設や地域住民向けの文章講座でつながった若葉台のママ達と神奈川県住宅供給公社さんで話し合い「スマホで手軽に見られる地域の子育て情報共有サイト」としてHPを立上げたことをきっかけに、若葉だい家族の活動が始まりました。

#### — 活動を長続きさせる秘訣はありますか。

「直接顔を合わせる」ということを大切にしつつ、ライターや編集メンバーそれぞれが無理なくできる範囲で活動することが大事だと思っています。

みなさんそれぞれ育児など状況は違う中で、お互い無理なく記事をかけていることが、今も活動できている要因になっているように思います。



# 子育て家族を応援するウェブマガジン 「若葉だい家族」



— **ライターになって良かったと思うこと、変わったことがあれば教えてください。**

様々なイベントに参加したことで人とのつながりができたことはライターになって良かったと思うことの一つ。また、いままでインドア志向だったが「外に出てみようかな」とか、いろいろなものに興味がわいてくるようになったりとライターになったことで自分自身にも変化がありました。

— **地域に起きた変化など感じたことがあれば教えてください。**

地域の情報が集まるようになりました。また、オフィス春というリアルの拠点があることで、「記事や情報発信して」と持ち込みで

依頼してきてくださる方もいて、この場が少しずつ地域に根付いてきたのかなと思います。自治会長さんも事あるごとに情報発信の活動について、感謝してくれていて、理解してくださっていて、非常に心強く感じています。

— **今後の活動について。**

乳幼児のママたちによる子育て情報共有サイトして発足しましたが、今のライター自身の子供たちが成長するとつながりや情報も変わってきます。だんだん乳幼児の情報が直接得にくくなるし、情報量が偏ってしまうかもなど課題はありますが、子供が小さい時の方がママ達はより情報が欲しいはずなので、これからもそういった方たちのためになる情報をとどけたいです。

# 洋光台団地

## 地域の情報収集・発信拠点の役割を担う 「まちまど（洋光台まちの窓口）」

### 【団地概要】

団地名：洋光台中央団地

所在地：横浜市磯子区

開発時期：1971年1月

アクセス：JR根岸線洋光台駅すぐ

面積：約3.6ヘクタール

住宅：15階建14棟 総戸数1,267戸

施設：飲食店、クラフトショップ、ケーキ店、CCラボ、  
コンビニ、雑貨店、衣料店、カフェ、貴金属・時計店、  
診療所、保育施設、美容室ほか



-洋光台のまち・人・活動をつなぐ窓口-

たくさんの素敵な活動と頼りになる方々がいる洋光台。

まちまどは、洋光台エリア会議から生まれ、まちとあなた、あなたと活動、活動と活動をつなぐお手伝いをします。

洋光台駅すぐ洋光台中央団地内のCCラボに拠点を構えています。

open 火～金 10:00-17:00（※臨時定休日あり）

みなさまをお待ちしています！！ InstagramやFacebook、HPも日々更新しておりますので、ぜひご覧になってください。



## 地域の情報収集・発信拠点の役割を担う 「まちまど（洋光台まちの窓口）」

まち、ひと、活動をつなげる窓口として、地域の情報発信としての役割も担う「まちまど（洋光台まちの窓口）」。  
そこで地域スタッフとして常駐する洋光台在住の青山さん、伊藤さん、そして運営スタッフとして携わるHITOTOWAの  
佐藤さんが今回インタビューに応じていただきました。

### 地域で何かしたい人が何かできるよう、背中を押したい。

ー 地域スタッフとして「まちまど」に携わることになった経緯を教えてください。

**青山さん**「もともと地域の子育てサークルの代表をしていて、その活動の繋がりで、地域の情報発信拠点を立ち上げるので、スタッフにならないか？とお声掛けいただいたのがきっかけ。まちまどスタッフとして活動することで、子育て世代だけではなく、多世代の方々との繋がりができた。そのみなさんと”日頃からお互いに持っている情報を交換し合う”ということが、洋光台にある、たくさんの素敵な活動の発信につながっていると思う。」

**伊藤さん**「私はもともと、地域にあるログハウスでスタッフをしていました。声をかけられたときはすごく悩んだが、内容が面白そう



# 地域の情報収集・発信拠点の役割を担う 「まちまど（洋光台まちの窓口）」

「だったし、イベントで町内会長などとお話をする中で、改めて洋光台は良いまちだと思ったので、やってみることにしました。」

### 一 活動を始めて地域やご自身に起きた変化があれば教えてください。

**青山さん**「自分たちの活動が地域で少しずつ知ってもらえるようになってきた。面識のなかった方にも、「SNSみています」とまちで声をかけていただくことが増えてきており、その反響に驚いている。まちまどで出会う方々は特技を持っている人がたくさんいて、その力を地域で発揮できるように、きっかけを作ったり背中を押すことを意識している。たとえば趣味でアロマを楽しんでいた方にアロマ講座の先生になってもらったり、子育てで仕事から数年離れていた元カメラマンのママには写真講座を開催してもらったり。」

**佐藤さん**「ワークショップはとても好評で、講師のママさんは別のところから仕事のお話しも頂いているみたいです。」

### 一 この地域の魅力を教えてください。

**伊藤さん**「CCラボも地域の方に非常に多く利用されていて（取材当時）、何かしたいからとりあえずCCラボを借りるという方がいるくらい、本当に活動的な方が多いなと思います」

**青山さん**「洋光台の方は明るくてオープンな方が多い印象。洋光台は団地ができたことで外部から引っ越してきた方も多いからこそ、お互いに受け入れることができるのかなと思う。若い方にも興味をもって話しかけてくださったり仲間に入れてくれる方がとっても多いんです。」

# 団地の魅力の発見・発信による活性化

ご清聴、ありがとうございました。

また、各団体のみなさま、  
インタビューならびに撮影に  
ご協力いただきまして、  
誠にありがとうございました。